※令和４年度以降入学生用

学校番号	3004

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史科	科目	歴史総合	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	私たちの歴史　日本から世界へ　（山川出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

歴史は暗記科目と思われがちな科目ですが、年号や事件名・歴史上の人物をたくさん覚えることが歴史ではありません。ある事象はなぜ起きたのか、時間的・空間的に関連しているものは何か、どのような対応を選択し、どのような結末を迎えたのか。また他にどのような影響をおよぼし、現代とどのようなかかわりがあるのか。我々はどう評価するのか。様々なことを資料など通じて考察します。

２　学習の到達目標

a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:学びに向かう力人間性等
人間社会の発展を理解する上で、必要な基礎的知識とその分析技能を身につける。	社会の変化を構造的にとらえ、関係する様々な要因の相互の関わりを理解する。	これから生きる自分たちの社会形成に主体的に関わる意識をもって、その道筋としての人類の歴史を自らの問題としてとらえる。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	近現代の歴史の変化に関わる諸事象を、世界とその中の日本を相互的な視野で捉え、現代の諸課題に関わる近現代の歴史を理解している。その過程で諸資料から情報を適切に処理し、調べまとめる技能を有している。	近現代の歴史を時間的・空間的なつながりを、事象の時代背景や他の事象との比較、関連性に着目して多面的・多角的に考察し、それを効果的に説明し、また議論する力を身に着けている	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に着けている。また多面的・多角的な考察や深い理解を通して我が国や我が国の文化、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	歴史の扉	歴史の扉1 歴史と私たち 歴史の扉2 歴史と資料	a:身の回りの事象と世界の歴史がつながっていることを理解し、史資料の重要性と,事実と解釈を分けて読みとるなどの正しい読み解き方について理解している。 b:身の回りの事象と世界の歴史とのつながりについて考察し、自分の考えを表現している。 c:史資料などを客観的に解釈し、世界とのつながりのなかで、周りの事象をとらえようとしている。	ワークシート 定期考査	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート
	第1部 近代化と私たち	近代化への問い 1 18 世紀の世界とアジア 2 産業革命 3 アヘン戦争と日本 4 日本の開国 5 日本開国期の国際情勢 6 開国後の日本社会 7 市民革命と国民統合 8 明治維新 9 富国強兵と文明開化 10 日本の明治初期の外交 11 大日本帝国憲法の制定	a: 18 世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向,日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解するとともに,それらに関する諸資料を活用している。 b: 国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的･多角的に考察し、表現している。 c: 国民国家と立憲体制に関して，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	ワークシート 定期考査	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート
		12 日本の産業革命と日清戦争 13 帝国主義 14 日露戦争と韓国併合	a: 列強の進出と植民地の形成、日清･日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解するとともに、それらに関する諸資料を活用している。 b: 帝国主義政策の背景、帝国主義政策が与えた影響などに着目して主題を設定し、帝国主義政策の特徴、列強	ワークシート 定期考査	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

			間の関係の変容などを多面的･多角的に考察し、表現している。 c：列強の帝国主義政策とアジア・アフリカの変容に関して、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。			
2学期	第2部 国際秩序の変化や大衆化と私たち	1 大衆運動の芽ばえ 2 第一次世界大戦 3 第一次世界大戦と日本 4 ロシア革命とその影響 5 社会運動の広がり 6 国際協調 7 アジアの民族運動 8 大量生産･大量消費社会	a： 大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化, 教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達など大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解するとともに、それらに関する諸資料を活用している。 b：第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを、多面的・多角的に考察し、表現している。 c：議会政治に基づく政党内閣制や国家や社会の在り方を模索する多様な思想や運動とその主体の意義に関して、大量消費社会の功罪、教育の重要性や世論形成におけるマスメディアの重要性を認識し、民主主義社会・資本主義社会の一員として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	ワークシート 定期考査	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート
		9 世界恐慌 10 独裁勢力の台頭 11 日本のアジア侵出 12 第二次世界大戦 13 第二次世界大戦と日本 14 第二次世界大戦の終結	a：世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら理解している。 b：ファシズム体制の形成から終戦に至るまで、ドイツや日本で大衆がなぜ戦争に協力していったのか考察し、自分の言葉で表現している。 c：大衆の戦争への加担という問題を	ワークシート 定期考査	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

			現代社会における課題としてとらえ。その解決策を追究しようとしている。			
		15 戦後国際秩序 16 冷戦の始まり 17 日本の戦後改革と日本国憲法 18 日本の独立	a: 冷戦および冷戦構造の形成と、国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら理解している。 b: 国際連合を中心に、第二次世界大戦以前と以後の国際関係を比較することで、戦争の経験が人々に何をもたらしたのかを考察し、自分の言葉で表現している。 c:大戦後に形成された冷戦構造と国際連合による平和維持体制における課題が、現代社会にどのような影響を与えているかについて考察し、解決策を追究しようとしている。	ワークシート 定期考査	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート
3学期	第3部 グローバル化と私たち	1 第三世界の登場 2 冷戦の固定化と「雪どけ」 3 冷戦の展開 4 55 年体制と安保闘争 5 高度経済成長の光と影 6 ベトナム戦争とアメリカ 7 経済構造の変化 8 日本の経済大国化 9 アジアの経済成長	a:冷戦下における各国の選択と経済成長について理解している。 b:各国の選択を比較し、「東アジアの奇跡」が起こった要因や世界史における意義について考察し、自分の言葉で表現している。 c:冷戦下における各国の政治的・経済的選択が、現代社会にどのような課題を生み出したのか考察し、解決策について追究しようとしている。	ワークシート 定期考査	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート
		10 社会主義の停滞と新自由主義 11 冷戦の終結 12 冷戦後の地域紛争 13 地域統合 14 現代世界の諸課題 15 日本の諸課題	a: 冷戦終結の過程とグローバル化の特質について理解している。 b: グローバル化の進展や地域統合、ナショナリズムの強化について各地域を比較して考察し、その特質や問題点を自分の言葉で表現している。 c: 冷戦の終結とグローバル化の進展がどのような課題を生み出したのかについて考察し、解決策について追究しようとしている。	ワークシート 定期考査	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度